

豊庄だより

第 762 号 2023 年 6 月 19 日



福岡市早良区南庄 2 - 2 6 - 1 3
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

今日は 6 月 19 日です。「この日から思い浮かぶことは？」と聞かれて、「福岡大空襲！」と答えることができる人はどれくらいいるのでしょうか。福岡市のほとんどの小中学校では、福岡大空襲のことをクラスでの授業や集会を行っていると思います。小中学校にお子さんを通っている家庭では、家で「福岡大空襲について勉強したよ」と自分から話す子もいれば、話さなかったとしても、保護者が聞けば話してくれると思います。

今年は 6 月 19 日が月曜日で、合同朝の会の日でもあるので、子どもたちに話すことにしました。アメリカの爆撃機が焼夷弾という爆弾を落としている絵や福岡市が焼け野原になってしまった写真を見せました。子どもたちが何かを感じてくれたらと思っています。

さて、今回の豊庄保育園で平和学習をする以前に、ある中学校から(20 年近くかかわっている)飯倉校区人尊協に、「1 年生に福岡大空襲のことを話してほしい」という依頼があり、私も発表に参加することにしました。お話は、もちろん福岡大空襲のことですが、コロナ禍になる前、2019 年に福岡大空襲の戦跡をフィールドワークをし、12 月に行っている「人権まつり」で発表した内容をもとにしたお話でした。当日、中学生の姿を見て感心しました。みんな真面目でした。きっと発表を受け取ってくれるだろうと期待しました。発表は、20 分くらいでしたが、真剣に聞いていました。パワーポイントで写真や絵を正面のステージに映し、フィールドワークで学んだこと、思ったことを、数人で分担して発表は行いました。20 年近く取り組んでいることなので、手慣れたもので、すいすいと発表がなされました。私は、パワーポイントの操作を担当しました。数日前に公民館のスタッフからパワーポイントのデータと発表原稿をいただき、テストをしていました。これまで各地で人権と平和に関するフィールドワークをしてきた内容、今回、福岡をテーマに選んだ理由などが語られました。しかし、2019 年の時原稿の内容がかなり違っていました。文章とパワーポイントの映像が合いませんでした。おかしいなと思い、2019 年に発表した原稿と比較して、その理由が判明しました。まとめの部分が大きく変わっていたのです。変わっていたというより、削除され、作り替えられていました。理由を聞くと、学校側からそのようにしてくれと頼まれたそうです。

その部分は、福岡の作家である米倉齊加年さんが書いた『おとなになれなかった弟たちに』の「あとがき」がダメだということでした。この本は福岡大空襲で弟を栄養失調で亡くしたという米倉さんの体験をもとにした絵本です。では、その絵本の「あとがき」には何が書かれていたかを紹介します。



戦争ではたくさんの人たちが死にます。そして老人、女、子どもと弱い人間から飢えて死にます。私はそのことをわすれませんが、でも、もっとわすれてはならないことがあります。

私の弟が死んだ太平洋戦争は、日本がはじめた戦争なのです。そして朝鮮・韓国・中国・東南アジアの国々、南方諸島の人たちをどんなに苦しめ悲しませたことでしょうか。それは私たちが苦しみ悲しんだ以上のものです。

そのことを私たちはわすれてはならないと思います。

この「あとがき」を発表の結論として発表の終わりに入れていたのです。つまり、戦争は被害だけでなく、加害の部分をおぼえてはいけないと訴えたのです。しかし、「これらの言葉は除いてくれ」というのが学校側からの要望でした。『おとなになれなかった弟たちに』は、教科書にも載っている教材です。私は、学習の最後に「あとがき」のことを必ず話していました。全体の場では話せなかったところはクラスでぜひ話してほしいと思いました。